

飼料用全粒玄米の給与割合が「ひょうご味どり」の生産性に及ぼす影響

「ひょうご味どり」の4週齢以降の飼料中のトウモロコシを全粒玄米と100%代替すると、飼料要求率が改善され、肉のオレイン酸割合が増加し、飼料費は少なくなる。

内 容

「ひょうご味どり」に飼料用全粒玄米を自家配合によりトウモロコシと25%、50%、75%及び100%代替した飼料（全量中飼料用米割合はそれぞれ16.3%、32.5%、48.8及び65.0%）を給与し、生産性、産肉性及び経済性を比較した。

試験区は25%区、50%区、75%区、100%区及び対照区の5区分を設け、「ひょうご味どり」110羽を各区22羽ずつウィンドウレス鶏舎で4週齢から14週齢（出荷時）まで飼育した。

結果を表に示した。いずれの区においても嗜好性に問題はなく、健康状態は良好で、育成率はすべて100%であった。雌雄平均体重は各区分に有意差はなかった。飼料要求率は50%区、75%区及び100%区が優れる傾向であった。正肉歩留まりは75%区が対照区に対して有意に高かった。腹腔

内脂肪割合は各区分に有意差はなかった。肉の色は玄米の代替割合に比例して淡くなる傾向がみられた。もも肉のモノ不飽和脂肪酸割合は、100%区が対照区に対して有意に高かった。1羽当たり飼料費及び正肉100g当たり飼料費は玄米の代替割合に比例して少なくなる傾向がみられ、100%区が最も少なかった。

以上のことから、「ひょうご味どり」における4週齢以降の飼料中のトウモロコシと全粒玄米との最適な代替割合は100%であると考えられた。

今後の方針

現場での肥育に活用し、「ひょうご味どり」の低コスト生産を図る。

龍田 健（家畜部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2429）

表 各区の成績比較

項 目	25%区	50%区	75%区	100%区	対照区
育成率	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
雌雄平均体重 (g)	3,913	3,963	3,830	3,817	3,820
飼料要求率	3.62	3.38	3.40	3.37	3.58
正肉歩留まり (%)	33.1ab	33.3ab	33.9a	33.5ab	32.5b
腹腔内脂肪割合 (%)	5.22	5.61	5.26	5.55	5.24
肉の色 (もも) *	2.89a	3.05a	2.74b	2.58b	3.00a
モノ不飽和脂肪酸割合 (%)	37.2ab	39.3b	38.4ab	39.8a	36.0b
1羽当たり飼料費 (円) **	885	809	752	713	882
正肉100g当たり飼料費 (円) **	68.3	61.4	57.9	55.8	71.0

a,b: 異符号間に有意差あり (p<0.05)

* 畜試式鶏標準肉色模型 (もも肉、1: 淡い~6: 濃い)

** 粳米: 32.4円/kg、粳摺費用: 17.0円/kg (歩留まり80%)、二種混価格: 87.0円/kg